

新居浜市民大学講座での発表



私たちの郷土である新居浜市は瀬戸内海と四国山地に囲まれた温暖な地域で、人口約12万人、四国屈指の工業都市です。郷土の発展を築いたのが市街地の南にそびえ立つ別子銅山です。別子銅山は1691年に開坑し、7年目にして年間産銅量世界一を誇りました。長崎貿易では輸出されていた銅の4割が別子銅山から産出されていたなど、幕府を支える貴重な財源でした。1973年に閉山するまで、約300年という長い歴史を持っています。

しかし、閉山から40年近くが経過し、地元の人たちでさえもその存在を知る人は少なくなり、その記憶も風化の一途を辿っています。

そこで私たちの先輩方が、新居浜の歴史や文化を廃れさせてはいけないと立ち上がり、今から13年前、別子銅山の学習を始めました。これが基となって、当時銅山で働かれていた方の聴き取り調査や、観光ボランティアガイド、各地での発表など、様々な形で別子銅山の情報発信をするようになりました。

ところが年々、私たちのガイドや発表に参加して下さる方は固定化し、新しい展開を見出せなくなっていました。

「高校生パワー、全開!!」 観光甲子園への取り組み

「観光甲子園」へのチャレンジ

特集
4



愛媛県立
新居浜南高等学校
ユネスコ部 部長
篠原 佑輝

スタートでした。観光について学ぶ中で、『観光』とは、「ふるさとの光(魅力)を心をこめて示す。心をこめて観ていただく」という本当の意味を知りました。別子銅山は、まさに世界に誇れるふるさとの光です。

別子銅山には明治以降の近代化の陰で起こった災害や環境破壊により、多くの尊い命や自然が失われるという負の遺産があります。しかし、それらと真正面から闘い抜き、苦難を克服した先人たちのおかげで、現在の緑豊かな自然や快適な環境があります。また鉱山の町は閉山後、殆どが過疎化し失われるケースが多い中、閉山後も工場群が立ち並び四国の産業の拠点となっている新居浜市は、先人たちが私たちに贈ってくれた知恵の結晶です。

そのような先人たちの想いを知ってほしいことから、単なる廃墟や珍しい物を見物するのではなく、「学び」をテーマとして別子銅山を観光アピールすることにしました。

そして様々な施設のパンフレットやツアー広告のスケジュールなどを参考にしながらプランを練っていきました。また地元の観光会社にスケジュールのアドバイスをしていただいたり見積書を作成していただき、より実現可能なツアープラン作成に挑みました。

試行錯誤の中でしたが、別子銅山から観光をスタートし、新居浜の町を巡り、最後は



観光甲子園準グランプリ受賞

瀬戸内海に浮かぶ島まで、別子銅山300年の歴史を追体験する2泊3日のツアープランが出来上がりました。

一次審査は書類選考で行われました。全国から157ものプランの応募がありましたが、本選出場権を得られる10校の一つとして私たちのツアー企画がノミネートされました。

本選では10分間のプレゼンテーションの他、観光用ポスター、ツアーのガイドブックの作成などが課題として与えられました。日本一を目指し、夏休み返上で毎日夜遅くまで練習や資料作成に取り組みました。

そして迎えた本選、結果は準グランプリでした。そこには涙ぐむ姿がありました。しかし、その涙は嬉しさではなく、目標を達成できなかったことへの悔しさの涙でした。プラン企画は実現して本当の価値を持つものと考え、私たちはこの悔しさを原動力として「絶対に商品化してみせる」という思いで、次の一歩を歩みだしたのです。

商品化への道

その初めの一歩は試験的にツアーを行うことでした。

当初2泊3日であったスケジュールは、参加の容易さなども考慮して、再びプランの練り直しを行い1日に短縮しました。さらに現地



観光ツアーのようす



観光ツアーポスター

での事前研修も重ね、ツアー経路の安全確認、およびガイドのポイントを観光ボランティアガイドの方に研修していただきました。

1年かけて準備を行い、第1回目のモニターツアーを実施。しかしこの中で多くの課題が露呈しました。思い込みや緊張から説明を読むことに精一杯になってしま

い、おもてなしの心で観光客をお迎えするつもりというプラン提案時の思いを忘れてしまっていました。またツアー終了後のアンケート結果からツアー工程の多忙さやツアー価格の低価格化などの点を指摘されました。せっかく参加していただいたお客様に失礼なことをしてしまったという思いから大きな衝撃を受け、部活をやめたいというところまで追い詰められてしまいました。

しかし、支えてくださった多くの方々がツアーの実現を望んでいました。苦しい中でしたが、多くの方たちとの絆が私たちに次の一歩を踏み出す

チャンスを与えて下さいました。

そこで2か月後、2回目のツアーを実施、1回目のアンケートを反省材料として、時間配分やガイドのポイントを改良し、準備を十分行つて、自分たちもリラックスしてガイドに臨むことができました。ツアー実施後のアンケートも全体的に好評を得ることができました。

**地域づくりへの
貢献を目指して**

3年を経た2011年、ようやく観光会社に認められ、商品化が決定しました。商品化ツアーは、「スタディーツアー」と名称を改め、ガイドも参加者も共に学び、共感しあうツアーを目指しました。

現在2回のツアーを実施、市内だけでなく、松山・今治・西条から約50名の方にご参加いただきました。「次回も参加してみたい」「友人を誘ってみたい」など好評をいただいています。そして、今年10月には3回目のツアーの実施を予定しています。

私たち高校生パワーを全開にして、私たちのまちの魅力を発見して、地域づくりに貢献できるようこれからもがんばります!



まちづくりへの
貢献を目指して